

## 何故字分けするか

そうよく人に聞かれます。答えは、内観（自分を観る）をする為です。他にもいろいろな瞑想の方法がありますが、「天鏡図」という表を持っている人達は字分けをします。というより、しようとします。

なかなか初めは難しいです。これに関し考えさせられる機会が最近二回ありました。それからお話ししましょう。

一人目は飯島秀行さんのことばです。私の質問に対する答えとして少し他の話の後でおっしゃったことです。

「一日に5分、いや10分でも良いから瞑想をするか一人で静かに座ってください。初めは雑音ばかりかもしれませんが、とにかく自分を観ることです。静けさを体験することです。そのうちきっと分ります。全ての人が何時かは必ず分るようになっているのです」

私の質問というのは、

「遠い過去から現在までの間の全ての人間のエゴによる自己中心的な思いの溜まった海のような所に私達は漬かっているとして、そこから飛び出して、外側から海を見たのは何時のことですか？」

子どもの頃小学校に行く道路上の自分を上から見ている自分がいたというのが答でした。初めからそういう人はめったにいないので、今からそうなりたいという人はどうするのが良いかとお聞きしますと、しばらく他のお話があつて、それから先ほどのことばになったのでしょう。

海の外に出なければ海を観ることは出来ません。自分の思いの中に埋没しては自分を観ることは出来ません。小田野先生の教えによれば、今自分の身に降りかかっている「困難や不都合」は一種の啓示なので、それを一旦文字にして、それを分けることが自己の客観視につながる、いや、他にこれ以上の良い方法はないのではないかと思うとのこと。何故なら「字」の中に答が込められているからなのです。

しかし「字」はなかなか割れません。自我で割ろうとしても決して割れないか、あるいはたとえ割れてもそこに「回答」という燦然たる光が射してこないのです。これには「天鏡図」を頂いた皆さんも頭を抱えてしまったと聞きます。

そこでもう一人のお話。桑原大治さんです。桑原さんも長年「字分け」をしてこられた方です。やはり割れない字を無理に割っては出ない回答に頭を悩ませたそうです。それが

ある時、気づいたのだそうです。

自分が生きて来た道を振り返って見てつくづく分ったことがある。それは言う事為す事の全てが「反動」によるもので、自由意思による自発的行為でなかったことだった。主に親の押しつけに対する反発で生きていた為、字分けもその延長線上でやっていた。これが分るまで字分けによる「気づき」は起きなかったし、その結果、人生は悲惨で苦しいものだった、と。

では、どうどう巡りの徒労的な字わけではなく、理解の光が射すような字分けをどうしたら出来るのかということになります。

それには内観を妨げるものに気づくことだと思います。桑原さんにとっては「反動」が妨げの原因でした。飯島さんは「雑音」と呼んでいました。それは「言い訳と責任転嫁」だそうです。自分の身に起きていることの全て、自分の周囲で起きていることの全て、地球上で起きていることの全ての責任を自分が担うことですよ。何故なら「自分しかいない」からだそうです。これと同じことを小田野先生もおっしゃっていました。

「宇宙の実親には権利主張というものはない。ただ責任あるのみです」

その時に分らなかった理由をここで申します。その時には「自分しかいない」という大真理を知らなかったからです。

「人間全部で一人なの。一人しかいないように私には見える。いや一人しかいないようにしか見えない」

これは太母さんのことばです。三人の「海を外から見ることの出来る人」が同じことを言っていたのです。

字を分ける時、言い訳と責任転嫁を退けることです。どれほど醜く、恥ずかしく、うす汚く、こすからく、愚かでもそのままの自分を観ることを避けないことが字分けのこつです。また瞑想による内観のこつです。私が見た海は「ヘドロの海」でした。でもそれが「見えたもの」なので受け入れるより仕方ありませんでした。でもその後の解放感と気づきは貴重なものでした。

2012.5.21 金環日食直後に記す